

# 電力会社がお提案するBCP策定ガイド

---

企業活動の継続に必要な計画策定のノウハウをご紹介します

プロローグ

中部電力ミライズ株式会社

CHUBU Electric Power Miraiz Co.,Inc

# はじめに

## もしも…

地震により、  
会社の建物や機械設備が  
破損してしまったら



インフルエンザなどの感染症  
の流行により、多くの従業員  
が出社できなくなったら



仕入先の火災事故により  
部品や商品を調達  
できなくなったら



コンピュータウイルスに  
より、機密情報が  
漏洩してしまったら



## あなたの会社はそのようなとき、 どう対応しますか？

私たちの会社は、  
生き残ることができるのか？



お客さまからの信頼を  
維持し続けることは  
できるのか？



従業員を守ることは  
できるのか？



## 企業を取り巻くさまざまなリスク

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、東北地方を中心に最大震度7という強い揺れを起こしただけではなく、巨大な津波を引き起こし、甚大な被害をもたらしました。これにより多くの企業は、貴重な人材や設備を失い、経営に大きな影響を受けました。

自然災害だけではなく、インフルエンザなどの感染症の流行、火災や交通事故の発生、個人情報の漏洩をはじめとする情報セキュリティ問題など、さまざまなリスクがあります。

このような状況は、いつ発生するのかわかりません。想定どおりの状況になることもまずないでしょう。平常心を保てなくなることで考えられます。しかし、いかなる緊急事態におちいった場合でも、あなたの会社は、従業員の安全確保やお客さまからの信頼維持など、企業が生き残るのに必要な決断をしなければなりません。





あなたの会社が、自然災害（地震・津波、風水害 など）、大火災、感染症（インフルエンザなどの感染症）などの被害を受けたとき、「どのような対応ができるのか」「どのような対応をすべきなのか」を考えてみてください。ここでご検討いただいたような判断を、緊急時でも平常心を保ちながらおこなう必要が出てきます。

なお、こうした被害を受けたとき、多くの方が「事業を継続するための経営判断など難しいのでは?」と考えるのではないのでしょうか。

しかし、創意工夫をこらした対応などにより、事業を継続している企業はたくさんあります。

## 緊急時の経営判断とその対応が重要

緊急事態におちいった場合、「いかに適切な判断をおこない、緊急時の対応を実施するのか」がたいへん重要となります。そして、適切な対応をおこなうことで、業績の安定やお客さまからの信頼を得るだけでなく、場合によっては、さらなる信頼の向上、業績の向上などにつながります。一方、適切な対応ができなければ、業績の悪化はもちろんのこと、お客さまからの信頼の喪失などにつながってしまうことも考えられます。

言い換えれば、

**緊急時に適切な対応をおこなうかどうか、今後あなたの会社が生き残れるかどうかの分かれ道となります。**



### 適切な緊急時の経営判断と対応を実施

業績の安定・向上  
お客さまからの信頼維持・向上

### 適切な緊急時の経営判断と対応を実施できない場合

業績の悪化  
お客さまからの信頼喪失



## POINT!

あなたの会社が緊急事態におちいった場合でも、適切に対応し危機を乗り越えるためには、何も起きていない平常時から緊急時の対応についての検討を重ね、取りまとめておくことが重要となります。

そして、このような検討結果を取りまとめたものを、「事業継続計画(Business continuity planning) = BCP」といいます。

CHECK!

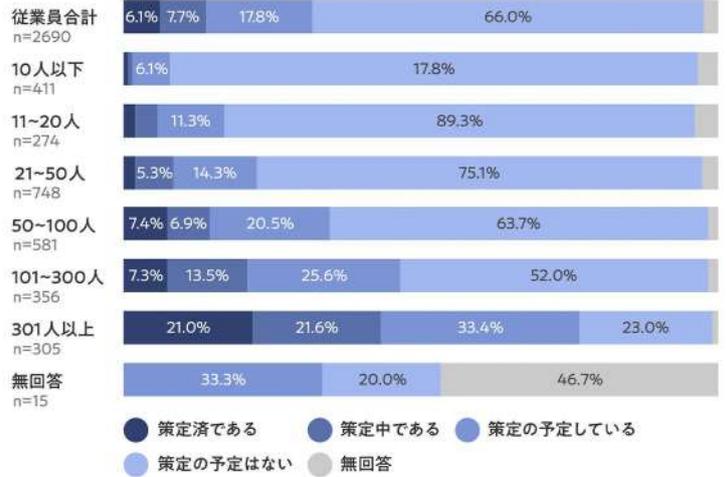
ではBCPの策定状況とポイントを見てみましょう

## BCPの策定状況

右記のグラフはBCPの策定状況について、中小企業庁が2011年に実施した調査の結果です。

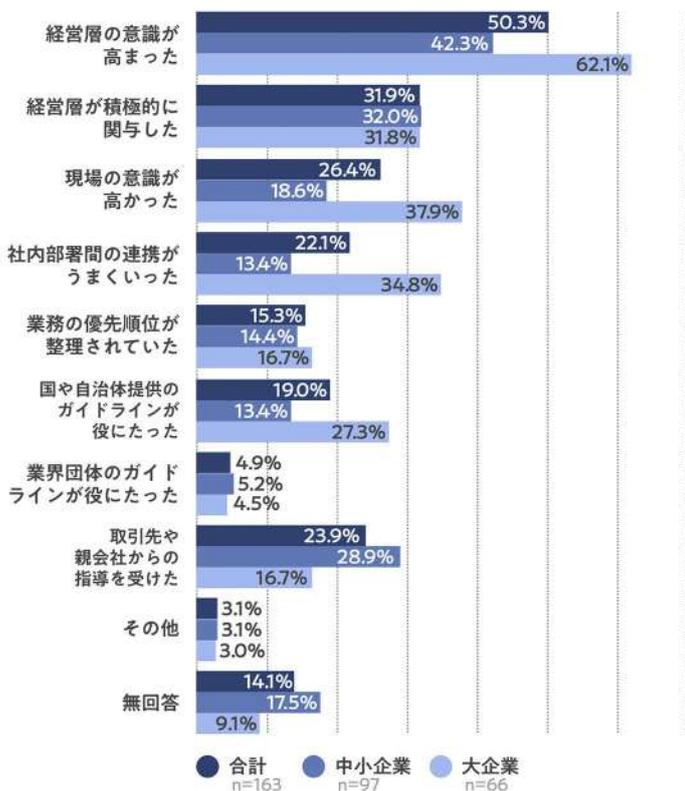
「すでに策定済みである」と「策定中である」を合わせた企業の割合は、全体では13.8%に留まっており、「策定を予定している」を加えても、その割合は32%弱と調査に回答した全企業の約1/3程度です。調査から2年を経過していますので、取り組んでいる企業数は増加していると思われませんが、まだまだ低い状況です。

傾向としては、従業員数が多く、規模の大きい企業になるほど高い率となっており、中小企業ではあまり実施されていません。これには人的リソースや「BCPは利益につながらないので？」といった社内の意識、組織体制の問題などさまざまな要因が考えられます。



出所：中小企業庁 [2011]「平成 23 年度中小企業のリスクマネジメントに関する調査に係る委託事業報告書」  
(委託先事業者名：三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング株式会社)

## BCPの策定がうまくいったポイント



出所：中小企業庁 [2011]「平成 23 年度中小企業のリスクマネジメントに関する調査に係る委託事業報告書」  
(委託先事業者名：三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング株式会社)

左記のグラフは先の調査の中で「策定済みである」と回答した企業から得たBCP策定がうまくいった理由を並べたものです。もっとも回答数が多かったのは「経営者の意識が高かった」であり、次いで「経営層が積極的に関与した」となっています。



BCP は企業の存続や社会的責任などに関わることであり、経営レベルでの意思決定や方向づけをしっかりとこなうことが大きなポイントといえるでしょう。

## BCP策定・運用のメリット

### CHECK!

一般にBCPへの取り組みによるメリットは、緊急時における対応力が向上するというもののみとしてとらえられがちです。しかしながら、BCPを策定し、日ごろから継続的に運用（訓練、見直しなど）することであなたの会社はさまざまなメリットを受ける可能性も出てきます。

例えば、BCPの策定・運用により、業務の工程における課題を発見でき、それを解決することで業務の効率化につながったり、策定したBCPをアピールすることで取引先などからの信頼獲得（販路拡大）につながるなど、日々の経営を改善・向上できるということも考えられます。

#### BCPを策定・運用することで

- ◆ 緊急時における対応力の向上  
（緊急時に適切な対応を実施できる力の向上）
- ◆ 緊急時に優先的に継続すべき商品・サービスが明確になる
- ◆ 業務工程の効率化



#### さらに策定したBCPをアピールすることで

- ◆ 既存の取引先からの信頼向上
- ◆ 新規取引の獲得（販路拡大）

## おわりに

次回以降、このようなBCPのメリットを踏まえながら、BCPの策定、運用方法および業種別のポイントを解説していきます。さらに、リスクに直面し、緊急事態におちいった企業が事業を継続、もしくは早期復旧のために創意工夫をして取り組んだ事例を紹介していきます。

また、事業継続に必要なエネルギーの確保という観点から、電気についての情報や取り組み方などを、あわせてお伝えしていきます。

BCPは決して特別なものではありません。「何かあったらどうする?」という考えの延長にあるものです。ぜひ、本コンテンツを読んでいただき、経営の改善や売上アップ、新規取引先の開拓などに役立つものとして、BCPの策定・運用の参考にしてください。